



日本気象学会

# 東北支部だより

第 85 号

2017年 9月

<http://tohoku.metsoc.jp/>

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪一丁目3番15号  
仙台第3合同庁舎 仙台管区気象台内  
(公社) 日本気象学会東北支部



## 支部長就任あいさつ

日本気象学会東北支部長  
大林 正典



田中前支部長の異動に伴い、4月の東北支部臨時理事会において支部長に選出されました、大林正典です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、簡単に自己紹介させていただきます。昭和60年に大学卒業で気象庁に採用され、仙台管区気象台で3年間レーダー観測や天気予報の仕事をしました。その後、気象庁予報部で降水短時間予報や航空気象予測資料の開発に従事したほか、沖縄に3年、大阪に1年の勤務経験があります。最近の15年ほどは、予算や組織体制、施策の立案・推進等を扱う、いわゆる業務畑で仕事をしてきました。そして、今回が約30年ぶりの仙台勤務です。気象学会に関しては、「天気」によって気象学の最新動向を知るという受身の関わりが主でしたが、大阪では支部役員として秋季大会開催(京都)を経験しました。また、青年海外協力隊に参加してドミニカ共和国の気象局で2年間活動した経験を「天気」に投稿したことがあります ([http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/1994/1994\\_12\\_0871.pdf](http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/1994/1994_12_0871.pdf))。

前回仙台にいた30年前と比べて、一昨年に関東・東北豪雨や、東北太平洋側に初めて上陸した昨年台風第10号など、東北地方の気象状況が大きく変化していることが肌で感じられます。実際、アメダスの観測資料から、東北地方の1時間50mm以上の強雨は増加傾向が明瞭に現れており、今後も地球温暖化に伴って増加が予測されています。このような状況から、国全体として防災対応の強化が進められており、気象庁では、関係機関や住民の防災対応を支援する新たな防災気象情報の提供を開始しました (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/newstage/newstage.html>)。気象学会においても、2009年に気象災害委員会を設置し、研究会の開催や、防災学術連

携体への参画等の活動を行っているところです。

このような防災分野に限ったことではありませんが、研究部門と業務部門の交流を通して、双方の問題意識や調査・研究の方向性等について互いに理解を深めることは重要です。この観点から、東北支部では、一昨年から気象研究会を仙台管区気象台の東北地方調査研究会と合同で開催しております。昨年は発表を機に学生が新規入会した等、支部活動の活性化につながっており、今年も昨年同様の形式で開催する計画です。

また、気象学やそれに基礎を置く気象業務の発展には、幅広い国民の支持が不可欠です。東北支部では、気象学やその成果の活用について普及を進めるため、気象講演会や気象サイエンスカフェを開催しています。昨年も、支部会員の努力や共催・後援いただいた団体のご協力により、幅広い参加者を得て盛会であったと伺っております。今年の気象講演会は、秋田市で開催する計画で準備を進めております。また、気象サイエンスカフェについても、日本気象予報士会東北支部と連携して、特に高校生などが興味を持てるような内容で開催する計画です。

来年には仙台で学会秋季大会が開催されます。東北支部として、大会の成功に向けて各種の準備を着実に進めていきたいと考えています。支部会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

微力ではありますが、皆様のご協力をいただきながら活動計画を進めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

## ごあいさつ

弘前大学 谷田貝 亜紀代

愛する日本気象学会東北支部の皆様、こんにちは。昨年4月に弘前大学大学院理工学研究科に准教授として赴任しました。このような執筆の機会をいただき、大変光栄です。話題はどのようなことでもよいとのことで、お言葉に甘えて、自分の言葉で、ご挨拶させていただきます。

いかに幸いなことか  
 神に逆らう者の計らいに従って歩まず  
 罪ある者の道にとどまらず  
 傲慢な者と共に座らず  
 主の教えを愛し  
 その教えを昼も夜も口ずさむ人。  
 その人は流れのほとりに植えられた木。  
 ときが巡り来れば実を結び  
 葉もしおれることがない。  
 その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

旧約聖書、詩篇第1篇のことばです。キリストの香りのする街で素敵な学生やスタッフの方たちとすごしはじめて1年余りが経ちました。いろいろ苦しいことがあり、なぜか私の魂は東北がいいな、と思っていたので、主(キリスト教やユダヤ教の神のこと)が備えてくださった道を歩む幸いを、この詩篇の言葉のようにかみしめています。

## 1. ひろさき

博士の学位を取得し結婚してから20年にあたる節目に、このパーマニョントの身分に就くことができました。それも、純粋公募で、女性限定などではなく、専門である気象分野の教員として選ばれたことが、とてもうれしかったことです。それまで弘前と直接のつながりはありませんでした。夫がキリスト教牧師を務める教会に、お嬢様が弘前大学の先生をされているSさんという方がおられました。その海外調査のときにお孫さんのお世話をされたり、お孫さんのために編まれたセーターのお下がりを息子がいただいたこともありました。Sさんは数年前東京を離れ弘前でお嬢様と同居されており、弘前というともまず思い浮かべるのがこのSさんでした。あとは、2000年頃だったか、児玉先生がホストをされたモンスーン関係のワークショップに参加したこと、被ばく研の先生、農学の先生で、ちょっと面識がある方があった程度でした。恥ずかしながら、雪国であることも、りんごやお城の桜が有名なことも、こちらに来てから知りました。一方、赴任後に、夫から弘前バンドという言葉がきました。明治初期に宣教

師の働きでキリスト教のリバイバルが起こった地をそうよびますが、札幌バンド、熊本バンド、横浜バンドなどがあります。Sさんと再会したとき弘前の印象を聞かれ、人々は素直で、とても癒されるといって、おおきくうなずかれ、彼女も摩擦が少ない、仕事や生活しやすいところとおっしゃっていました。

## 2. 遍歴

私は都立日比谷高校出身で、筑波大学には推薦で入学しました。環境問題が流行る前ですが、公害問題などを考えるのに気象学や水の流れを勉強しようと思ったからです。恩師である安成哲三先生には当時、私は宣教師になりたいとか、ノアの洪水の気象条件や伝説の背景の研究をしたいとか言って、へんな学生だったと思います。学際的なこと、砂漠化に興味がある、という、ちょうど中国の砂漠化に関するプロジェクトがあるから、と、それが大学院のテーマになりました。それほど熱心に研究者になると決めていたわけではありません。

最初の仕事は、宇宙開発事業団地球観測データ解析研究センター(EORC)でのポスドク(PD)で、熱帯降雨観測衛星(TRMM)の初期画像作成にもかかわりました。PDの期限がきれるときに、京都の総合地球環境学研究所の公募があり、大学院時代にやりのこしたことが出来そうので応募したところ、助手として採用されました。あこがれの中近東の研究、農学、水文学、氷河などのフィールド調査、歴史や民俗学の先生方との日常的な会話。どれも楽しかったです。早坂先生ともご一緒しました。

一方で、気候モデルがどんどん高解像度化するのに、検証データがないことから、中近東について雨量計による降水データを作るという研究提案をしたところ採択され、本格課題への応募を促されました。「肥沃な三日月地帯(Fertile Crescent)」の研究も少しはじめ、古環境モデルや、ノアの洪水の再現とか古環境データとの照合もやりたかったのですが、「アジアの水資源への温暖化影響評価のための日降水量グリッドデータの作成」が2006年から開始し、余裕がなくなっていました。これがAPHRODITEです。東北大学の岩崎先生の紹介で、ある国際会議に参加したことで、フロリダ州立大Krishnamurtiとの、予報改善にAPHRODITEを用いる研究にもつながりました。

2011年2月末に地球研を任期満了となりましたが、非常勤講師や、震災後の緊急プロジェクトで雇ってもらい、福島大渡邊先生のXバンドレーダーデータの処理もさせていただきました。そのかたわらでYatagai et al. (2012, BAMS)のAPHRODITE論文なども出せました。また超高層分野のデータベースのとりま

とめ仕事に誘われ、国内のデータ活動や文科訪問といったことも経験できました。N大は1年様子をみて信頼関係を構築したら、APHRODITEの後継課題の応募に融通を利かせると言うてくださったのですが、お金のばら撒き指示があったり、それをしていないのに「あなたが金をくばったじゃない」といわれたり、お金を配っておきながら業績集計もしなかったのはおかしいという「どうして人を批判するのか」「観測には金がいる」と凄まじく、突然倒れたり、苦しかったり、声がでなくなるなどの症状が出てしまいました。後に上司は謝罪しましたが、信頼関係を築こうとの努力を壊されトラウマは未だに残っており、N大のことは大変残念です。でもそんな中で、東北の人たちの素朴さ、やさしさを感じることもあり、この弘前への赴任は奇跡のように思っています。

### 3. APHRODITE-2

少しゆっくりしようと思っていたところ、応募した科研費2件が採択され、急遽地球研での客員身分を頂き、7月から2015年度限りという約束で東大高敷先生がエフォート半分のPDとして雇っていただきました。また地球研の身分で後継課題「極端現象と気象解析のためのAPHRODITEアルゴリズムの改良」応募を認めていただけて、それが採択されました。この年、水文水資源学会の国際賞も頂きました。APHRODITE-2のポンチ絵だけ載せておきます。APHRODITEは、雨量計日降水データを集め、品質管理し、グリッド化して公開しています。実はデータソースごとに日界(その24時間降水は、世界時で何時から何時までなのか)は違います。同一地域で異なる日界を混ぜてしまっているところもあります。この問題を解決しないと、衛星推定の検証も、予報の改善も出来ませんし、極値の議論もできません。成果や進捗は、<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~aphrodite2/>に載せています。

### 4. 大学の教員として

高校3年生のときの進路相談で、「自然科学をやりたい」「教えるのは好きだが少人数がいい」というと、担任の先生は「教師はまず子供が好きであること」、「少人数は、大学の先生にならない」といわれました。弘前大への着任はそれから30年後になります。初年度から、4年生の卒論指導6人担当させてもらいました。授業も、地球熱力学、地球流体力学、気候システム、気象学I,II、21世紀の地球環境問題、など担当し、かなりの勉強が必要でした。授業準備や研究環境・生活面の立ち上げだけでも大変なのに、APHRODITE-2をいれて、6つも代表者としての研究課題があり、学生にはデータ整理のバイトによりプログラミングなどを覚えてもらい、なんとかAPHRODITEデータを作れるように環境整備できました。国内外の出張の機会も出来るだけあげました。学生さんに教えつつ一緒に研究することが非常に楽しく、30年前に思い描いた姿に、やっとなれたのかな、と思います。知人から聞いていたとおり、弘前大の学生の質は良く素直で真面目でした。

模擬授業と面接のとき、「ヤマセなど地域の問題にも関心はありますか?」「学科名が来年から、地球環境学科から地球

環境防災学科に変わります。福島のことをやっていたようですが、防災には関心はありますか?」などと聞かれました。これら本当に関心があったので、心から「はい」ということができました。現に、弘前大名誉教授でヤマセの研究で知られたト蔵先生をおまねきして一般向け講演会も3月に開催できました。学生指導も、地域貢献も、世界への発信も、国際共同研究も、すべてに全力投球した1年でした。2年目の今年、大学院授業もはじまりました。

最後に、また聖句を。これは私が院生のとき読んだ、PeixotoやOortの書いた水循環に関する論文に引用されていたイザヤ書です。大気側の水循環の解明、雨、雪、農学への応用、これらが常に私の根底にありました。後半は主の言葉のことで。主の願いが全地に満ちますように。

雨も雪も、ひとたび天から降れば

むなく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ

種蒔く人には種を与え

食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も

むなくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ

わたしが与えた使命を必ず果たす。

(旧約聖書 イザヤ書 55:10-11)



写真 弘前大学理工2号館屋上にて(2017年4月撮影)。前列左端が筆者。

### 極端降水評価と気象解析のための APHRODITEアルゴリズムの改良

Asian Precipitation - Highly-Resolved Observational Data Integration Towards Evaluation (APHRODITE) of the Extreme Events

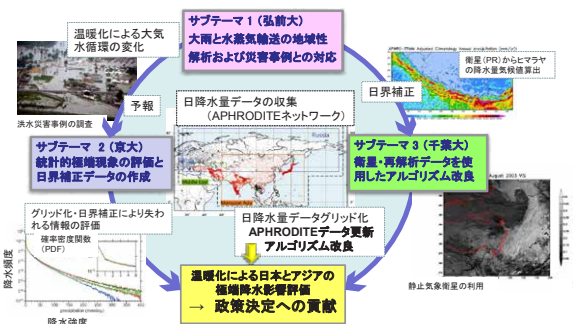


図 APHRODITE-2概要 (環境省地球環境研究総合推進費2016-2018年度採択課題、代表：弘前大学 谷田貝)

# 大学での気象学について考える

福島大学 共生システム理工学類 吉田 龍平

## 1. はじめに

福島大学の吉田龍平と申します。東北支部だよりは毎回楽しみに読んでおりましたがこれまで原稿を投稿したことがなく、今回東北大学の青木先生より執筆する機会をいただきました。まず、簡単に自己紹介をしたいと思います。大学生のころから東北を中心に生活しており、2006年に弘前大学の石田祐宣先生の下で学部を卒業後、大学院からは東北大学大学院に進学し、2011年に山崎剛先生の下で博士（理学）の学位を取得しました。その後（独）農業環境技術研究所のポスドク、東北大学の助教を経て2015年4月より現職についております。所属している学類（概ね学部とさせていただいて構いません）では1人の教員が1つの研究室を運営するようになっており、研究室の運営・研究活動・学類生や大学院生への講義を行っております。今回は、そんな大学の現場で日々考えることについてお話ししたいと思います。なお、私見が多く含まれておりますのでその点ご了承ください。

## 2. 高校地学と大学気象学のギャップ

この原稿を執筆している時点（2017年7月）で福島大学には4つの学類があります。そのうち理系の学類は1つだけで、他の3つは文系の学類です。全学を対象とした1年生の教養科目を担当する機会があり、気象学に関する基本的な内容の理解度チェックを行ったところ文系学生の方がよくできていました。地学は高校理科の1科目であり、そのため理系学生の方が成績がよいと期待されますが実際は逆の結果でした。これは、理系学生は高校で地学を深く学ぶ機会が少なく、理解を進めるためのバックグラウンドがそれほど充実していないことが元になっていると思います。

気象を大学で学びたい高校生にとって、文理選択では理系に進むことが主なルートです。しかし理系に進むと地学を学ぶ機会がなくなり（物理、化学、生物が中心）、大学で高校地学の内容の一部講義する状況になっています。また、気象学に興味を持った文系学生がもし大学で気象学を学びたいと考えた

場合、彼ら / 彼女らは大学入試で数学や物理の知識が問われます。高校の理系学生にとっては履修の機会の少なさ、文系学生には大学入試での困難さがあり、結果として2017年1月に行われたセンター試験での地学の選択率（理科1科目受験）は他の理科3科目と比べて1桁小さくなっています（表1）。1桁差といっても物理、化学、生物はほぼ拮抗している中で地学だけが突出して小さい値です。これが理科2科目受験になって改善するかといえばそうでもなく、物理—化学、生物—化学の組み合わせが圧倒的で（これだけで98.8%）、地学を組み合わせる受験者は0.1-0.2%しかいません（表2）。先に挙げた項目が「地学離れ」の原因かどうかは今後の確認が必要ですが、少なくともこの傾向は平成2年まで振り返っても同じようです（大学入試センターのホームページより）。自身のことを振り返ってみても、高校の地学の先生にお会いすることは稀だったように思います。大学での教員養成課程、高校でのポストの充実など、課題は山積しているように思えますが、少しずつ改善に向けて進むことで若手の活性化が起こり、ひいては気象学の発展につながるのではないのでしょうか。

## 3. 研究テーマの設定

福島大学では3年生の前期で希望する研究室を選択し、後期から実際に配属されて卒業研究を進めていきます。卒業研究を行う期間は1年半で、これは他の大学と比較すると長い方ではないでしょうか。そのため、学生の研究テーマをどう設定するかは教員にとって特に重要なポイントです。

3ヶ月くらい面談をしたり学生が調べたりしてテーマを決定しているのですが、基本的には学生がやりたいと思う研究を自由に設定させるようにしています。研究室のインフラの関係で難しいこともありますので、その場合には話し合いで着地点を見つけるようにしています。ただ、限られた環境の中でもできるだけ「面白い研究かどうか」を意識するようにしています。

ここで皆さんにお話（相談）したいのは「面白い研究」とはどう定義されるべきでしょうか。社会に役立つことが面白い

のか、あるいは知的好奇心を満たすことが面白いのでしょうか。人によって多様な答えがあると思うのですが、過去の「東北支部だより」を見返したところ、東北大学の早坂先生が同様のテーマで書かれておりました（早坂 2014）。その中で早坂先生は「学生たちに向かって研究室の紹介をするときに、社会が重要と言っている、あるいは IPCC が重要だと言っているというようなことを知らず知らずのうちに強調していないだろうか」と書かれています。そして、「このことを強く自覚しないと気象学が学問として本当に面白いということが学生に伝わらないのではないかと思います」と続けています。社会貢献できることに達成感を感じる、知的好奇心を満たすことに充実感を感じる、いずれも研究を進める動機にはなると思うのですが、「面白い研究とは」の定義はまだ自分の中で確定できていない日々を過ごしています。結論はまだ出そうにないのですが、毎年 10 月に研究室に加わるフレッシュなメンバーや先輩学生らといっしょに考えていきたいと思っています。

#### 4. 近年の研究

最後に、私が進めている研究についても簡単に紹介します。ここ数年は気象データをどう活用するかといった点に興味があり、特に農業気象への応用研究を進めています。（独）農業環境技術研究所（当時）との共同研究で、東日本における今後のコメの生産性について数値シミュレーションを用いて検討しました。温暖化が進行した東日本では高温障害が顕在化しても冷害はなくなり、今後は顕在化する高温障害と継続する冷害の両面への警戒が必要になることを示しました（図； Yoshida et al. 2015a）。また、気象研究所や筑波大学らと共同で行った研究では、水稻の病害（いもち病）発生の将来見通しを降水量の変化に着目して行い、降水イベントが減少することによる葉面上水分の減少と、降水強度が増加することによるいもち病菌の洗い流しの増加でいもち病の感染リスクは低下する見込みであることを示しました（Yoshida et al. 2015b）。これらは少数のモデル計算に基づくもので結果の解釈には注意が必要ですが、近年はアンサンブル水稻生育予測を行い、不確実性を考慮したより詳細な予測研究に取り組んでいます。

以上、日々教壇に立ちながら考えていることを（少なくとも気持ちの上では）若手の目線から紹介いたしました。気象学会東北支部会や全国大会の際に、お酒を傾けながらぜひ皆様と議論できれば幸いです。

#### 参考文献

1. 早坂忠裕 (2014) 気象学と大学・社会，東北支部だより，79, 2-3.
2. Yoshida, R., Fukui, S., Shimada, T., Hasegawa T., Ishigooka Y., Takayabu I., and Iwasaki T. (2015a) Adaptation of rice to climate change through a cultivar-based simulation: a possible cultivar shift in eastern Japan. *Clim. Res.*, 64, 275-290.
3. Yoshida, R., Onodera, Y., Tojo, T., Yamazaki, T., Kanno, H., Takayabu, I., and Suzuki-Parker A. (2015b) An application of a physical vegetation model to estimate climate change impacts on rice leaf wetness. *J. Appl. Meteorol. clim.*, 54, 1482-1495.

表 1 2017年1月に実施された大学入試センター試験の理科の受験状況  
(大学入試センターの資料より引用)。  
理科1科目受験者が選択した科目の内訳(単位: %)

	物理	化学	生物	地学	計
科目選択率	36.2 %	31.8 %	31.5 %	0.5 %	100 %

表 2 表1と同様、ただし理科2科目受験者が選択した科目の組み合わせ。

科目	物理	化学	生物	地学
	物理	71.4 %	0.6 %	0.2 %
		化学	27.4 %	0.1 %
			生物	0.2 %

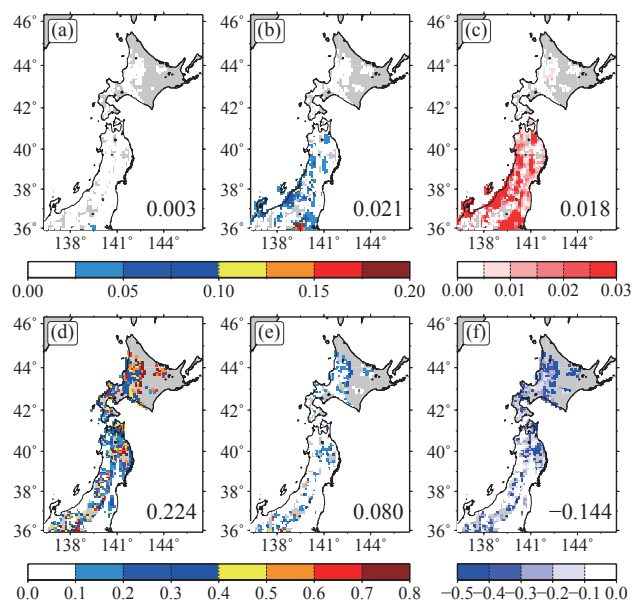


図 MIROC5モデル(RCP4.5)に基づく、(a)1981-2000年の高温による不安率、(b)同2081-2100年、(c) (b)-(a)の空間分布。(d-f) (a-c)と同様、ただし低温による不安率。各図右下の値は領域平均値で、灰色の部分は非水田を表す(Yoshida et al. 2015a)。

## 2016年度 日本気象学会東北支部第2回理事会

日時：2017年2月27日(月) 15時00分～17時00分  
 場所：仙台管区気象台第1会議室  
 出席：田中、藤田、桜井、岩崎、境田、青木、福山、岩尾、名越(以上理事)、小池(会計監査)、山崎、岩淵、斎藤、佐藤(賢)(以上幹事) 和田(杉山理事の代理 オブザーバー参加)  
 欠席：杉山(理事)  
 司会：桜井

### 議題4. 2017年度事業計画案

- 秋田県で開催予定の気象講演会については、10月開催を念頭に準備する。
- 気象研究会における各地区からの交通費については、議題7②の額を基準とするものの、希望者が多く予算を上回る場合は、按分するなど都度検討することとする。
- 支部だよりは、電子化を検討しつつ、当面は現状を維持して進める。

### 議題5. 2017年度予算案

#### 〔支部強化基金による活動会計〕

- アンケートを実施した結果、ポスターやチラシの配布が幅広い集客につながっていたことがわかった。このことから2017年度予算案は、資料印刷費を増額し、役員費・交通費を減額している。

### 議題6. 検討事項

- 2018年度秋季大会の準備について
  - 準備委員会を早めに立ち上げること
  - 使用会場については大学に持ち帰り議論すること
  - 予算との兼ね合いで、アルバイト・外注化等を検討することを確認した。
- 支部だよりの電子化について
  - 支部だより等の電子化は、経費節減ということでほかの支部でも電子メールを利用した支部だよりを導入しつつあるので、時代の潮流としてその方向で行くと考えている。
  - 機関誌「天気」もいずれ電子化するという動きがあるが、会員のメリットは何かという議論や、図書館などの法人会員がいなくなってしまうという懸念がある。一方では、経費を節減しないと会員減に対応できないということでもあり深刻な議論が続いているところ。
- 支部長会議の報告
  - 会員数が減っていくことへの対応だが、本年度から学会発表者を会員に限定していくことになっており効果を見極めていくとのこと。関連して、天気や支部だより等についても、会員でなければ見られないようにしなければメリットがないのではないかという議論があった。
  - 新しく立ち上がった気象ビジネス推進コンソーシアムに、気象学会も入っている。業務支援センターのサービス対応など難しい問題もあるが、気象情報の高度利用という意味では、学会としても積極的に参加しようという動きになっている。

## 2017年度 日本気象学会東北支部臨時理事会

日時：2017年4月4日(火)～2017年4月13日(木)(書面開催による)

### 議題1. 新支部長・地方理事・幹事の互選

- ・事務局(案)のとおり推薦選任した。
- 支部長 大林 正典 氏 仙台管区気象台長
- 地方理事 和田 幸一郎氏 秋田地方気象台長
- 幹事 武樋 路子 氏 仙台管区気象台気象防災部観測課

## 2017年度 日本気象学会東北支部第1回理事会

日時：2017年5月8日(月) 15時00分～17時20分  
 場所：仙台管区気象台第1会議室  
 出席：大林、藤田、桜井、岩崎、境田、青木、福山、杉山、名越(以上理事)、小池(会計監査)、山崎、岩淵、斎藤、武樋(以上幹事)  
 欠席：和田(理事)  
 司会：桜井

### 議題1. 事業等の担当理事の補充

- 事務局(案)のとおり承認した。
- ①支部気象講演会 境田常任理事  
(2017年度秋田開催) ○和田地方理事
- ②支部気象研究会 桜井常任理事
- ③東北支部だより 青木常任理事
- ④支部独自活動 杉山常任理事
- ⑤支部事務局 桜井常任理事
- ⑥会計監査 小池会計監査 ○印は新任

### 議題4. 2017年度事業計画及び予算

- 東北支部だよりと2017年度予算案に関しての修正を含む形で、議案を承認した。
- (1) 2017年度事業計画
  - 東北支部気象講演会
    - 持ち回りで開催する方針を残しつつ、開催県の都合に柔軟に対応する。
    - 今回は秋田県での開催。秋田大学とも連携するような形で集客を頑張られたいと思う。
  - 東北支部だより
    - 支部だよりの電子化(議題6(2)参照)に関する議論をもとに、議案の一部を修正した。
  - 支部強化基金による活動
    - 昨年度は担当でワーキングチームを立ち上げメールベースのやり取りを行い、十分な準備ができたので、今年もそれに準じた形で準備を進めたい。
    - 前は東北大学の学生がファシリテータとして中心的な役割を果たしてくれて大変良かった。

●これまで以上に広報に力を入れて取り組んだのが良かった。

●なるべく、新しい人に来てもらいたい。

(2) 2017年度予算案

●支部強化基金の活動会計について、2017年度予算額のうち、気象予報士会分担金を10,000円から20,000円に増額し、資料印刷費と会場費開催費をそれぞれ30,000円から35,000円に増額する修正を加えたうえで、事務局案を承認した。

**議題5. 2018年度秋季大会準備委員会の立ち上げ等の確認**

●準備委員会の人選を行い初回会合を持って、予算案や外注方法の検討など、具体的な課題の洗い出しを行うことを目標とすることを確認した。

**議題6. その他**

(1) 支部長会議の概要報告

●第1回評議委員会で、評議委員から地球観測に関する現状と課題の提起があったが、気象学会としての長期戦略が必要な内容である。目先で対応するのではなく、地球観測のありかたに関する提言をひとつまとめるよ

うな方向で考えていけたらと思う。

●会費の見直し検討については、次の支部長会議で案が示されて議論され、支部にも意見照会がある見込みなので、本理事会でも検討をお願いしたい。

(2) 支部だよりの電子ファイル化について

●事務局からの具体手順の提案をもとに議論を実施した。議論の結果、現時点で完全電子ファイル化に向けた具体を議論するのは時期尚早であり、一定程度の郵送希望会員がいた場合について改めて議論するなど、会員の不利益とならないよう検討を続けることになった。そのうえで、次号の第85号は、郵送に加え既に気象学会に電子メールアドレスを登録している会員に対してメールでのお知らせを送付するという試みを行うこととした。

## お知らせ

### 日本気象学会東北支部気象講演会のご案内

- 日 時 平成29年10月28日(土) 14時00分～16時30分
- 会 場 秋田大学60周年記念ホール(秋田市手形学園町1番1号)
- テーマ 「激甚化する気象災害に備えて」  
講演1 「近年における大雨災害と防災気象情報の利活用」 講 師 秋田地方気象台長 和田幸一郎  
講演2 「秋田県における雪氷災害について」 講 師 秋田大学教育文化学部准教授 本谷 研
- 入場料 無料  
問合せ先：日本気象学会東北支部事務局(仙台管区気象台内) 斎藤  
TEL 022-297-8162 FAX 022-297-5615  
E-mail : tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp

### 第8回気象サイエンスカフェ東北の開催について

日本気象学会東北支部では、今年度も、日本気象予報士会東北支部との主催で、気象サイエンスカフェ東北を開催いたします。この催しは、今回で第8回を数えますが、一般の方とテーブルを囲み、ファシリテータを中心に、専門の人を交え、ざっくばらんに議論したり、意見を交換したりします。

昨年度は、事前の広報活動を充実させたことから、県内の高校からの参加者が予想をうまわれました。そこで今年度は、中学生、高校生が興味、関心を持つようなテーマを選択し、県内の学校を中心に、さらなる広報活動の充実を図ろうと思っています。

また、司会者については、例年通り、気象予報士会東北支部の会員のなかから、適任者をあてる予定です。

会場は、仙台管区気象台とする方向で検討しており、この機会を利用して多くの中学生、高校生にも気象台の各観測装置や観測予報などの現業室を見学してもらう会を企画したいとも考えています。

特に昨年は、それまでと違い、多くの一般の方に参加をいただきましたので、今年はさらにそれを推し進めようと考えています。日本気象学会東北支部の皆様にも、ぜひご協力を頂けますよう、お願いいたします。

**<開催概要>第8回気象サイエンスカフェ東北**

- 日 時 12月から2月の土曜日または日曜日の午後(予定)
- 会 場 仙台管区気象台(予定)
- 内容 話題提供者 未定
- 参加費 無料  
主 催：日本気象学会東北支部、日本気象予報士会東北支部  
共 催：仙台管区気象台、日本気象協会東北支社(予定)  
問合せ先：日本気象学会東北支部事務局(「日本気象学会東北支部気象講演会のご案内」参照)

## 東北支部「気象研究会」の開催案内と講演募集

日本気象学会東北支部は、2017年度東北支部気象研究会を、仙台管区気象台と共催で次のとおり開催します。多数の参加をお願いいたします。

- 開催日時 2017年12月4日(月) 10時30分～17時30分
- 会場 仙台第3合同庁舎 2F大会議室 仙台市宮城野区五輪1-3-15  
<http://www.jma-net.go.jp/sendai/infomation/chizu.html>
- 開催要領 通常の研究発表の形式で行う予定 発表時間は質疑応答を含み1題15分程度
- 参加費 無料
- 講演申し込み方法

題目、発表者名(連名の場合は講演者に○印を付ける)、所属機関名、代表者の連絡先(住所、電話、FAX、E-mail)、200字以内の要旨を郵送・FAX・メールで送付願います(メールによるお申し込みに対しては1週間以内に返信メールを差し上げます)。

なお、発表者には気象学会東北支部から交通費の一部を補助できる場合がありますので、希望者はお申し込みの際に事務局までご相談ください。学部生・院生の会員も補助対象とします。

- 講演申し込み期限 2017年11月10日(金)
- 講演申し込み先 日本気象学会東北支部事務局  
〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-15 仙台第3合同庁舎  
仙台管区気象台気象防災部防災調査課気付 気象学会東北支部事務局 斎藤篤思  
TEL 022-297-8162 FAX 022-297-5615 E-mail : tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp
- 講演資料の提出期限 2017年11月17日(金) 講演資料は、用紙 A4 2枚程度

詳しくは東北支部ホームページをご覧ください。過去の支部研究会の資料等が掲載されています。  
(<http://tohoku.metsoc.jp/workshop/workshop.html>)  
その他、ご不明の点は事務局までお問い合わせください。

## 事務局からのお知らせ

### ●支部だよりのホームページ掲載とメールでのお知らせについて

気象学会東北支部では、支部だより発行の際に、各会員に発送するとともに支部ホームページ(<http://tohoku.metsoc.jp/letters/letter.html>)に掲載しておりました。

このたび発行した支部だより第85号以降は、これまでと同様に各会員に発送し、支部ホームページに掲載するとともに、気象学会に登録いただいた電子メールアドレスにも支部メーリングリストを使用して、内容のタイトルを記した発行のお知らせをお送りしますので、ご理解のほどお願いします。

### ●個人会員の電子メールアドレス登録のお願い

気象学会では、登録のあった電子メールアドレスを積極的に活用し、学会活動の推進を図っております。

東北支部では今後、支部だより発行、支部からのご案内をE-mailで配信してまいりますので、まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、電子メールアドレスをご登録いただくようお願いいたします。

登録は、住所変更届と同様に、気象学会本部ページの「入会案内」ページにおいて「会員登録情報の変更」の画面に入り(<https://www.metsoc.jp/membership/update>)、必要事項を記入・確認の上、送信ボタンを押して完了です。

ご不明な点がございましたら事務局へお尋ねください。

### 日本気象学会東北支部事務局

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-15 仙台第3合同庁舎  
(仙台管区気象台気象防災部防災調査課内) 斎藤  
TEL : 022-297-8162 FAX : 022-297-5615  
メール : tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp

## 編集後記

今回のトピックは研究の最前線で活躍している若手・中堅の大学教員お二人に執筆していただきました。ご存じのように、最近大学をとりまく環境が厳しさを増していますが、それにめげず真摯に学生に向き合う姿に気象学の明るい将来が見えると感じました。(S.A.)